

○取組みを行った理由

当協議会の目的であるICTを効果的に活かすことによる豊かな県民生活の実現を目指し、ICTの先進事例や最新技術の紹介等により地域におけるICT利活用の需要喚起を図るため、広く一般の方々を対象にして、毎年度、セミナーを開催している。

○取組みの実施期間

平成26年2月5日(水)

○取組みの概要

平成25年度のIT政策セミナーは、第1部として総務省及び経済産業省の施策説明をいただき、第2部として、お二方の講師をお招きし、ICT利活用及びITS推進の観点からの御講演をいただいた。

ITS推進の観点では、一般財団法人計量計画研究所企画部次長の牧村和彦様から、「スマートで粋なモビリティ・デザイン～ITSと交通まちづくりの融合へ～」と題した御講演をいただいた。

○御講演の概要

●ITSを取り巻く誤解

- ・ITSは難しい
- ・ITSは高価である
- ・最先端の技術を使わなければ恥ずかしい
- ・ITSは略語の通り、システムである
- ・地域での取り組みがあまりなされていない
- ・まちづくりや都市のデザインとは直接関係がない

●スマートで粋なモビリティ・デザインの8つの視点

1 交通を見える化する

～公共交通機関がいつ来るか分からない問題を解決～

ドイツでは歩行者の動線上や商業施設内にバス等の到着までの時間や出発番線の情報を表示したり、日本においてもバスが接近するとバス停留所上部の表示灯が点灯する仕掛けがある。ちょっとした工夫で取り組めることである。

2 公共交通を優先する

～クルマに勝てない移動時間をITSで解決～

スイス・ローザンヌでは、バス会社と警察が連携し、遅れの程度により遅延しているバスが信号に接近すると信号を制御し優先させる仕組みがある。欧州では路面電車が交差点で止まることが少なくなるよう信号が制御されている取り組みが年々拡大している。

3 異なる交通をつなぐ

～乗り継ぎの精神的な負担をITSで解決～

ドイツ・ミュンヘンでは、パークアンドライドの存在と駐車場の空き台数を道路上に表示する取り組みがなされて

いる。欧米では、路面電車とバスが同じホームで乗り継ぎできたり、路面電車とバスの乗り継ぎが調整され、ハードとソフトが一体となったスマートな取り組みが行われている。

日本でも、地下鉄等からバスへの乗り継ぎ動線上に時刻表を表示したり、バスターミナルで待機する運転手に表示灯で列車の到着を知らせる仕組みの例がある。

4 まちづくりの合意形成を図る

～利害関係の調整をITS推進の観点で円満解決～

オランダや英国では、歩行者が優先される区域へ乗り入れる自動車を、センサーやカメラで制御されるライジングボラードで面的に都心や地区をマネジメントしている例がある。フランス・ボルドーやニースでは、都市景観美化のため、路面電車が路面から給電することで架線を無くした例がある。

5 限られた都市空間を最大限活用する

～歩行空間の確保をITSが解決～

フランス・ルーアンでは光学式白線検知を導入し、バス停の停車支援だけでなく、バス通りの車線幅を最小限にし、歩道幅を確保している例がある。

6 都市の交通をマネジメントする

～複雑な都市の活動、運営、管理をITSが解決～

欧米では、道路の混雑状況に応じて車の流れを推奨速度で制御したり、ランプ流入を制御することで渋滞防止と事故減少を実現しており、先進的な交通マネジメントが普及拡大している。

7 インフラをスマートにする

～安全安心をITSが解決～

オランダでは気温に応じて道路上に天候を示すマークが浮かび上がったり、夜間に路面の白線が発光するスマートインフラの取り組みが始まっている。

8 ビッグデータで交通まちづくりを改善していく

～ITSにより蓄積されたビッグデータがまちづくりの問題を解決～

人の動きをデータとして捉え可視化する取り組みが進められている。英国・ロンドンでは、気温、大気、公共交通、バイクシェアリングの状況など都市全体の活動をリアルタイムで可視化し、ウェブサイト上で見ることができる。

○まとめ

- ・ITSは手段であって目的ではない。
- ・地域の特性に応じたオリジナリティのある取り組みが重要
- ・まちづくりの考え方や都市デザインと一体となったサービスが重要